

学校 教育 目標	創造する子「Create～自分・仲間・学校・まち・夢を創る」 ◇自分で考え、判断し、責任を持って行動する子を育てます。(知) ◇友達を協力し、みんなのことを大切に子を育てます。(徳) ◇心身を鍛え、よりよい生活習慣を身に付け、自他の生命を尊重する子を育てます。(体) ◇まちの人や事柄とのふれあいを大切に、まちと共に生きる子を育てます。(公) ◇社会の変化に柔軟に対応し、自己肯定感をもち、夢やモチベーションを持ち続ける子を育てます。(開)				
	創立 31 周年	学校長 高島聡	副校長 小林圭	2 学期制	一般学級: 25 個別支援学級: 6
学校 概要	児童生徒数: 819 人 主な関係校: 川和中学校 川和小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
《自分づくりに関する力～問題解決的な学習過程を通して》  【各学年で重点的に育てたい資質・能力】 (低)主体性・積極性、人と関わろうとする力 (中)問題発見・解決能力、思いや考えを伝える力、意思決定をする力 (高)多様性を尊重する力、様々な情報を活用・選択する力、伝えあうことで自分の考えを深化する力	川和中学校 川和小学校 川和東小学校	人々と考えや思いを共有するコミュニケーション能力  ①各教科等の学習の充実 ②人権教育 ③様々な教育の場の連携

中期 取組 目標	<p>◇一人の児童を徹底して大切に、多様性を生かしたかかわりで、まちとともに歩む学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(学力向上・特別支援)児童一人ひとりの特性を見取り、個に応じた学習方法の工夫や指導方法を改善し、問題解決的な学びを通して学力が向上する学校にします。</li> <li>・(児童指導)安心・安全を第一に、児童一人ひとりと向き合い、寄り添いながら全教職員で一人の児童を育て、いじめを許さない学校風土づくりを進めます。</li> <li>・(職員協働)教職員としての自覚をもち、相互に信頼し、専門性を高めるために切磋琢磨しながら成長し合い、「チーム川和東」を実感する学校にします。</li> <li>・(特色1)大規模校の特色を生かし、ダイナミックな教育活動を通じて社会性を育めるようにします。</li> <li>・(特色2)まちの人や事柄とのふれあいを大切に、まちとのつながりを大切にすることが育つ学校にします。</li> </ul> <p>◇次のキーワードを大切にしながら、子どもの資質・能力を高めていく学校にします。</p> <p>・「いつも通り」に「当たり前」を大切に、問題解決的な学習、カリキュラムマネジメント、主体性、特別支援教育、ユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン、自主的授業公開、教科分担任制、少人数指導、GIGAスクール</p>
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①学力・学習状況調査の結果を分析し、課題を教員で共有し、授業改善で学力向上に取り組むとともに、資質能力の育成をめざした問題解決的な学びを通して、児童一人ひとりに応じた学習指導を行う。②児童が安心して学習に取り組めるようにユニバーサルデザインを意識した学習指導及び、教科担任制の授業の方法を工夫するとともに、学年で協力し、授業力を高める③GIGAスクール構想にともなう授業を積極的に取り入れ、通常の授業場面で、これまでの取組を生かしながら、よりいっそう、効果的な指導・評価の改善に務める。
担当	重点研推進・GIGA推進委員会	
徳	豊かな心	①特別の教科道徳の授業を充実させ、児童一人ひとりが自分の生活や生き方にあてはめながらよりよい生き方ができるように考えさせる。②地域の方やボランティアの方々との交流や、たてわり活動での異学年交流などを通じ、豊かな心の育成や感謝の気持ちを伝えられるように支援する。
担当	子ども支援・地域・異学年交流委員会	
体	健やかな体	①感染症対策の重点期間も過ぎ、体育の授業に、体力づくりを意識した内容を継続的に取り入れる。②食育をテーマとした学習を児童と保護者で実施する。③体力テストの結果から、子どもたちの運動への親しみを回復させるため、今年度も年間にわたり学校全体で取り組む運動を取り入れる。
担当	学校保健健康環境委員会	
公開	地域連携	①学校運営協議会・地域コーディネーターを中心として、地域の人材を活用したり、学校運営改善についてのご意見をいただく。②地域で開催される行事や、地域防災拠点訓練に、教員が参加するとともに、児童の参加を促す。③教育活動を中心として地域コーディネーターの活用を発展させる。④昨年度の創立30周年の取組を生かし、地域を軸とした効果的な教育活動を展開を継続・発展していく。
担当	地域連携委員会・教務	
児童指導		①今年度も学校生活スタンダードを全教職員が共有し、どの児童に対してもどの教職員が同じかかわりで支援ができるようにする。②一人の児童へのかかわりを複数の教職員でかかわり、それぞれの視点で、その児童のよい部分を共有する取り組みを行う。③愛情をもった指導を基本に、保護者対応でも親心に寄り添い、初動を迅速に行うとともに、学校への協力を取り付けることを大切にする。
担当	子ども支援委員会	
いじめへの対応		①「ゆうゆうアンケート」の定期的な実施を通じ、児童の困り感へ寄り添い、いじめのない学校にする。②「ゆうゆうアンケート」の結果を全教職員で共有し、「いじめ防止対策委員会」を中心として研修等で具体的に対応する。③有事の際には、これまで通りチーム対応で迅速確実な動きを実践する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①研究・研修・会議等を通じて「学校組織の究極目標は人材育成」であることを意識して自分の役割を自覚した働き方を行う。②学年副主任制で、学年経営を意識したミドルリーダーの育成を行う。③あらゆる会議・話し合いで、「職場の環境」「職員の健康」に視点を置いて効率的・効果的に活動できるようにし、総合的には教務会・衛生委員会で改善に取り組む。
担当	教務・衛生委員会	
特別支援教育		①特別支援教育コーディネーターを活用した児童支援・指導体制を作る。②特別支援教育校内委員会・子ども支援委員会・人権教育委員会での取組を通して、すべての学級で、「誰もが」「安心して」「豊かに」学校生活を送れるようにする。③在籍児童数が35→44人となる個別支援学級とのかかわりを全教職員が意識できるよう、継続的かつ組織的な改革を図る。
担当	子ども支援・特支教校内委員会	
異学年交流(くすのきタイム)		①様々な特性をもつ児童が誰とでも優しくかかわれるように、意図的・計画的に縦割り活動(1・6, 2・4, 3・5年によるきょうだい学年)を実施し、相手を思いやりながら行動できるよう育成する。②活動それぞれのねらいを明確にし、児童が目標をもって取り組めるようにする。
担当	異学年交流委員会	
自分づくり(キャリア教育)		①学校教育目標にかかわる「自分づくり」の活動を通じ、働くことの意味を理解し、企業と協働した参画活動に取り組む。②学校ボランティアの方や地域で学校のために活動してくれている人との交流をすすめる、生き方を学ぶ。特に、昨年度のように「おやじの会」とタイアップし、職業講座を年間に何回か企画・実践できるように協力する。③キャリアパスポートを有効に活用できるようにする。
担当	地域連携委員会・特活部	